

## 第24章 いわゆる本源的蓄積

### 第1節 本源的蓄積の秘密

#### 1) 本源的蓄積

「資本の蓄積は剰余価値を前提し、剰余価値は資本主義的生産を前提とするが、資本主義的生産はまた商品生産者たちの手のなかにかなり大量の資本と労働力とがあることを前提する」 (741)

・この全運動の悪循環から逃れるためには資本主義的生産様式の出発点である蓄積を想定しなければならない＝「本源的」蓄積

経済学において本源的蓄積が演ずる役割...神学における原罪のようなもの

- ・経済学上の原罪は、どうして額に汗する必要のない人々がいるのかを明らかにする
- ・この原罪が犯されてからは、自分自身のほかにも売れるものを持たない大衆の貧窮とわずかばかりの人々の富とが始まった

おだやかな経済学＝牧歌的

- ・正義と「労働」とが唯一の致富手段
- \*現実の歴史では暴力が大きな役割を演じてきた

#### 2) 本源的蓄積の現象

商品や貨幣の資本への転化には一定の事情が必要⇒商品市場の両極分化

- ・資本主義的生産はひとたび自立すると労働者と労働実現諸条件との分離（＝資本関係）をますます増大する規模で再生産する

資本関係を創造する過程

- ・社会の生産手段や生活手段が資本に転化する過程
- ・直接生産者が賃金労働者に転化する過程

「いわゆる本源的蓄積は、生産者と生産手段との歴史的分離過程にほかならないのである。それが「本源的」として現れるのは、それが資本の前史をなしており、また資本に対応する生産様式の前史をなしているからである」 (742)

資本主義の経済構造は封建時代のそれから生まれてきた

- ・直接生産者が自由な労働者になるには農奴の解放や組合、徒弟制からの解放が必要だった
- ⇒「生産者たちを賃金労働者に転化させる歴史的運動は、一面では農奴的隷属や同職組合強制からの生産者の解放として現れる」 (743)
- ・ブルジョアの歴史家にとってはこの面だけが存在している

\*解放された人々は、全ての生産手段と生存の保証が奪われてはじめて自分自身の売り手になる  
⇒「このような彼らの収奪の歴史は、血に染まり火と燃える文字で人類の年代記に書きこまれているのである」 (743)

・産業資本家たちも組合や封建領主を駆逐しなければならなかった  
⇒特権や拘束に対する戦勝の成果として現れる←卑劣な手段

資本主義的生産の萌芽...14~15世紀の地中海沿岸諸都市にみられる

・16世紀から資本主義時代に入る

「本源的蓄積の歴史のなかで歴史的に画期的なものといえば、.....、人間の大部分が突然暴力的にその生活維持手段から引き離されて無保護なプロレタリアとして労働市場に投げ出される瞬間である」 (744)

・この全過程の基礎は農民からの土地収奪  
・それが最も典型的に現れるのはイギリスである

疑問点

エフの側面  
{ 社会的地位が資本へ転化  
資本家の階級 ← 直接生産者)の側面.

・「本源的蓄積」という用語について、本節とそれ以前 (594、652) での使われ方  
・全運動の「悪循環」 (741) とはどういうことか  
・資本論における第24章の位置づけ、どのような役割を果たしているか

江原 291-2

1. 所有権保護 -- a 階級.
2. 199p. 向題